

備前市「論語かるた」大会競技ルール



大会で使用するルールについて説明しています。
各学校等で遊ぶ場合も、普段からこのルールを守って、礼儀正しく、仲良く楽しく遊みましょう。

【かるたについて】

大会では、「論語かるた」（「絵札」と「字札」各 44 枚で 1 セット）を使用する。

【部門及び取り札について】

- ・①小学生（低学年）以下 ②小学生（高学年） ③中学生 ④一般（高校生以上）の 4 部門とし、どの部門も絵札をとることとする
- ・決勝は各部毎に行い、各部上位 3 名を表彰し、賞状と記念品を授与する。

【競技方法】

○座り方（※図参照）

- ・（予選）競技者は、敷物の円内に広げた札を囲むように座る。
（決勝戦）競技者は、向かい合って座る。

○札の並べ方

- ・（予選）競技者が円内にかかるたを並べる。審判はかるたの向きなど不平等でないかを確認する。競技者任せにしない。
（決勝戦）審判 2 人で並べる。
- ・かるたを並び始めてから約 3 分間は、記憶時間とする。

○競技開始

- ・進行係が鳴らす太鼓 3 連打で競技を開始する。
太鼓の合図で審判は持っている旗を上げておく
競技者は、姿勢を正し、読み始めまで両手はひざに置く。

○札の読み方

- ・「読み手」が「から札・ひ」を 2 回読む。これが予告になり、1 枚目の札がまず 1 回読まれ（これを「本読み」と言う）競技者は、その札を取る。
1 枚目を取った後は、1 枚目の札をもう一度読み、次の札を読む。（各札は、取る時と取った後と 2 回ずつ読むことになる）。

「から札」も途中で必ず読まれる。

競技者は札を探し、大きな声で「はい」と言ってとる。その際にとった札を審判員に向け、確認を得る。

○確認

- ・審判は、誰が早く取ったか、取った札がっているかを確認する。
取った札が正解の場合、審判は旗を下げる。
取った札が間違いの場合、お手つきの競技者以外で正解が出るまで続ける。

○札の取り方

- ・札を取る時は、しっかり手で押さえる。取り札を飛ばしても取ったことにはならない。むやみに飛ばした場合は失格となる可能性がある。
- ・どちらが取ったかわからない場合は、審判が判断するが、判断が難しい場合、じゃん

けんで勝った方が取ることができる。

- ・判定が終わるまで、旗は上げたままにしておく。

○お手つき

- ・(予選) 読まれた札以外の札に触れた場合は、「お手つき」とし、次の回は一回休み。
(決勝戦) 読まれた札以外の札に触れた場合は、「お手つき」とし、自分が取った札の中から1枚を相手に渡す。ただし、両者が「お手つき」した場合は、または取り札がない場合は渡す必要はない。

○進行

- ・旗が全ておりて準備が出来ていることを確認してから、太鼓を1打する。
- ・審判は旗を上げる。読み手は、次の札を朗誦する。
- ・最後の1枚は、とらない。

○得点

- ・競技者は何枚とったかを審判に報告し、審判は記録表に枚数を記入する。
- ・2回行い、枚数の合計で得点を決める。
グループは、事前に決めておき、スムーズに場所移動ができるようにしておく。
- ・得点の多い順に決勝戦進出者、3位を決定する。
- ・本部は決勝進出者を確定・発表し、決勝開始時刻を知らせる。

【「論語かるた」の札の読み方について《注意事項》】

- ・読むときに濁点がつくもの

「け」：げん（言）を知らざれば、以て人を知ること無し。

「こ」：ごう（剛）・毅・朴・訥、仁に近し。

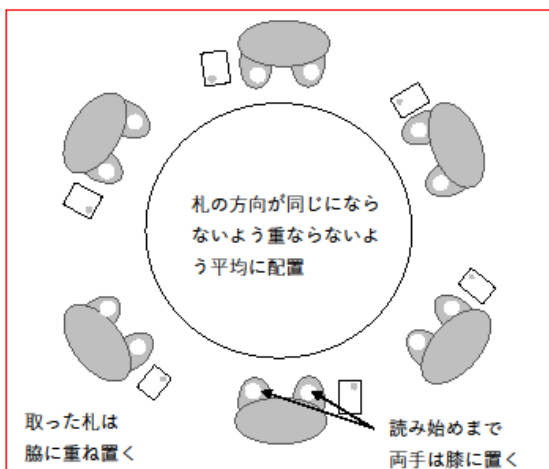
「し」：じん（仁）を為すは己に由る。人に由らんや。

- ・字札に（ ）がついているものは、（ ）内も読むので、「お手つき」に気を付ける。

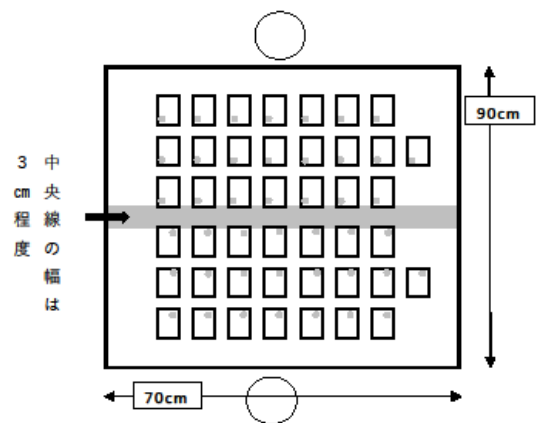
「ぬ」：（ふんど（糞土）のしょうは）ぬるべからず。

「へ」：（きゅうよう（久要）は）平生の言を忘れず。

座り方（予選）



（決勝戦）



※札と札との間隔は、前後左右1cm程度